



五重塔を熱心に描く



備中国分寺周辺に美しく咲き誇るレンゲ



名前の提案者や広場関係者などが除幕



いもじ池をゆったりと泳ぎながら毛繕い



普段は見られない初層に見入る

柔らかな日差しの中で

吉備路れんげウイーク

レンゲが見頃を迎える吉備路れんげウイーク期間中に、吉備再発見写生大会や備中国分寺五重塔初層・こうもり塚古墳の公開、五重塔ライトアップなどのイベントが行われました。

備中国分寺周辺を中心に、レンゲで一面が彩られた景観は吉備路の春の風物詩。多くの人が景観を楽しみました。



広場を訪れた人は演奏やダンス、マルシェなども楽しんだ



障がい者がウクライナに手を差し伸べる

ウクライナ支援マスクの販売開始

5月11日、市内の障がい者就労継続支援事業所でつくる総社デニムマスク実行委員会が、ロシアの侵攻を受けるウクライナを支援しようと、市役所でウクライナ支援マスクの販売を開始しました。マスクは、通常型とダイヤモンド型の2種類を展開。同国の国旗をモチーフにした青と黄色のツートンカラーになっています。同色を使用したお菓子やグッズも期間限定で販売。多くの方がマスクやグッズなどを購入していました。

マスクなどの販売金の一部は寄付され、ウクライナや避難民への支援に役立てられます。



①マスクのほか、クッキーなどの限定品も販売された ②平和への願いが込められたウクライナ支援マスク

ハクチョウが暮らす広場に笑顔が集う

ハクチョウ命名式・グリーンライブ

5月1日、グリーンライブの開催に合わせて、清音ふるさとふれあい広場でハクチョウの命名式が行われました。

命名されたのは、昨年11月にJFE瀬戸内海ゴルフ倶楽部から寄贈された4羽のうちの3羽。以前からふれあい広場にいたハクチョウの名前が「ふーちゃん」だったことから、頭文字をつなげて「ふれあい」になるよう、れーちゃん・あーちゃん・いーちゃんと名付けられました。名前は、同広場の利用者から募集。70通の応募の中から、同じ名前を考えた塩見優雨さん（清音小学校6年）と福光節子さん（清音地区）の案が選ばれました。残り1羽は寄贈された際、ハクチョウの頭2文字をとってハクちゃんと名付けられました。

現在、同広場にいるハクチョウは5羽。巣で休憩したり、仲良く池を泳いだりする姿を見ることができます。



巣で休むハクチョウを見守る子どもたち

ミニフォト

小野さん100歳おめでとう



家族に祝福される小野さん

小野高枝さん（東阿曾）が4月22日に満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈られました。和裁の仕事で着物を縫ったり、農作業を手伝ったりしていたという小野さん。長寿の秘訣は、明るく元気に過ごすことだそうです。

世界に1つだけの絵本



相談しながら絵本を作る参加者

4月24日、市図書館でオリジナルミニ絵本をつくろうが開催され、小学生とその保護者9組が参加しました。参加者は、自分で考えたストーリーや絵を書きながら、自分だけのミニ絵本を制作していました。

懸命に筆を運ぶ



集中して取り組む参加者

5月8日に高木聖鶴児童生徒競争書大会が市内の小・中学生を対象に常盤小学校で開催されました。参加者は、練習の成果を発揮しようと、学年ごとの決められた課題に挑戦。納得いく1点を提出していました。

版画の面白さに触れる



版画の種類ごとの特徴を鑑賞

4月23日から5月11日まで吉備路文化館で「版表現の楽しみVII～版を通して世界を見る～」が開催されました。4月30日にはギャラリートークが行われ、来館者は芸芸員の説明を熱心に聞いていました。

3年ぶりにペタンクで交流



狙いを定めてボールを投げる

5月10日、高齢者の健康促進や親睦などを目的とした市長杯ペタンク大会が市スポーツセンターで開催されました。3年ぶりの同大会には、10チーム30人が参加。チームメンバーと交流しながら競技を楽しんでいました。

地域の福祉のために団結



地域活動に尽力することを確認

5月12日の民生委員・児童委員の日を記念した式典が、総合福祉センターで開催されました。コロナ禍での声掛けや見守り活動に役立ててほしいと、市から各地区の会長に感染症対策グッズが配布されました。